




論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|-------------------|-------|---|
| 報告番号 | 博(工)甲第 47号 | 氏名 | 下妻 達也 |
| 学位審査委員 | 主査 | 瀬戸 心太 |    |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>下妻達也氏は、2016年4月に長崎大学大学院工学研究科博士後期課程に社会人学生として入学し、現在に至っている。同氏は、工学研究科博士後期課程に入学以降、当該課程の所定の単位を取得するとともに、レーダを用いた降水観測と水災害への応用に関する研究を行い、その成果を2017年12月に主論文「衛星搭載降水レーダの評価と補正された地上レーダデータの豪雨事例解析への適用」として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文4編(うち審査付き論文4編)、印刷公表予定論文1編(うち審査付き論文1編)を付して、博士(工学)の学位を申請した。長崎大学大学院工学研究科教授会は、2017年12月20日の教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2018年2月21日の工学研究科教授会に報告した。</p> <p>本論文は、大きく3つの内容から構成されている。1つ目は、衛星搭載降水レーダの降水強度推定値の検証であり、地域別に結果をまとめ、推定アルゴリズムの改善の方向性を示した。2つ目は、地上設置降水レーダの降水強度推定値の補正であり、山岳域やレーダサイト周辺でみられる異常値を除去する方法を提案した。3つ目は、補正された地上レーダデータを用いた豪雨事例解析であり、モンテカルロシミュレーションを用いた確率降水年推定手法に適用した結果と課題を示した。</p> <p>以上のように本論文は、レーダを用いた降水観測と水災害への応用に関して、新規性があり、高い学術的価値を有するものと評価できる。</p> <p>学位審査委員会は、下妻達也氏の研究が水文学の分野においてきわめて有益な成果を得るとともに、水文学の進歩発展に貢献するところが大きく、博士(工学)の学位に値するものとして合格と判定した。また、入学前5年間に掲載された筆頭著者の審査付き論文が3編、入学後に掲載された筆頭著者の審査付き論文が1編あることから、工学研究科規程第21条第2項ただし書の適用が適当であると判断した。</p> | | | |